



5月号 令和3年4月30日発行

# 窪田小たよりの

横浜市都筑区窪田南町694番地 [TEL911-0149]  
[http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



## 子どもたちの学びの保障

### ～ペア学年交流から私たち教職員が学んだこと～

校長 伊藤 智樹

「先生今日のなかよしグループはじめての会とても緊張しました！」この言葉は本校の特色ある教育活動の柱の一つである「なかよしグループ活動（縦割り活動）」の最初の活動「なかよしグループはじめての会」が終わったあと4年、5年、6年それぞれの学年の児童が話してくれた感想です。

文科省の学習指導要領には縦割り活動を「異年齢集団による交流」として目標や内容を以下のように記載されています。

異年齢集団による交流を重視するとともに、幼児、高齢者、障害のある人々などとの交流や対話、障害のある幼児児童生徒との交流及び ～略～ 協働することや、他者の役に立ったり社会に貢献したりすることの喜びを得られる活動を充実すること。

#### (1) 異年齢集団による交流の重視

特別活動における異年齢集団による交流は、各活動・学校行事において大変重要である。～略～ 異年齢集団が交流することによって、上学年の児童はリーダーとしての意識や下学年への思いやりの気持ちが高まり、リーダーシップを発揮することができたり、自己有用感をもつことができたりするようになる。そして下学年の児童は上学年を補佐したり、憧れの気持ちをもったりすることにより、成長や学習への意識が高まることにつながる。そのためにも、各活動・学校行事の特質や内容に応じて、上学年の児童が主体的に下学年の児童をリードする活動ができるような内容や時間確保の工夫が必要である。

【小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 第4章 第2節より一部抜粋】

はじめましての会で2年生がぼくの言ったことをおぼえてくれたり、聞いてくれたりしたからよかったです。～途中略～自己紹介の時、みんなの前で言葉を間違えそうになったけど練習したおかげで間違えなかったから練習してよかったです。グループのみんなが遊びを楽しんでくれてよかったです。あと2年生のみんなが、笑顔になってくれてよかったです。ぼくもみんなが笑顔になってぼくも笑顔になりました。 【4年生児童の振り返り作文より】



今まで本校でも当たり前のように活動してきた「なかよしグループ活動」。このなかよしグループ活動は本校のような小規模校のメリットを最大限生かしながらできる活動の一つです。そのため米作りの活動をはじめとする様々な行事等がこのなかよしグループが基盤となっていました。しかし、感染症対策

とはいえ本校の教育活動の基盤である様々な活動を見直し・制限をせざるを得ない状況は子どもたちにとって悲しいことです。上記の学習指導要領の中にもその意義や意図、活動の目標は明文化されています。

令和3年度は「1年生と6年生」「3年生と5年生」「2年生と4年生」といったペア学年を核になかよしグループ活動を進めていきます。「なかよしグループはじめましての会」では実質的なリーダーである4年・5年・6年の子どもたちの緊張とやる気、充実した気持ちを感じることができました。

令和3年度のなかよしグループ活動は、その教育活動の意義、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力と感染症対策の両者のバランスをとりながら進めていきたいと考えます。

現在の感染状況を考えると感染症対策は最優先で考えなければならないことです。その上で私たち教職員が何をすべきなのか考えることが必要です。4月の入学式では事前に6年生児童が収録したビデオをプロジェクターに映し出し在校生からのメッセージを新入生に届けました。

バランスをとりながら今年度も教育活動を企画立案し実行していくことが大切であるとあらためて実感しました。

